

創造的な復興へ



県政紹介
シリーズ ⑦

学校防災教育のさらなる充実を目指して

東日本大震災の厳しい教訓を踏まえ、県では、学校教育の重点の一つに防災教育の推進を位置付けています。震災の教訓を後世に伝えるとともに、児童生徒などが防災意識や災害対応能力を身に付けられるよう、学校と地域が連携しながら計画的・継続的に防災教育を行っています。

また、県立高校に災害科学科を開設するための準備も進めています。

東日本大震災後における 防災教育への取り組み

県では、防災教育を推進するため、平成24年度から全国に先駆けて、県内全ての公立学校に防災主任を配置しました。防災主任は、学校における防災教育の推進役として、防災教育に関する年間計画の立案や避難訓練などの実施、防災マニュアルの作成、学校と地域における防災対策の連携強化に向けた調整を行うなど、重要な役割を担っています。

学校防災教育の充実に向けて

「みやぎ防災教育副読本「未来へのきずな」」

子どもたちが、将来、どのような災害にあっても、自分の命を守り、共に助け合い、生き抜くことができるように、みやぎ防災教育副読本「未来へのきずな」を作成しています。子どもの発達段階に応じた内容で、写真やイラストを多く使い、身を守るため、または災害時に具体的にどう行動するべきかなどを記しています。

平成25年度は、小学校3・4年生向けの副読本を作成し、現在各学校で活用しており、今後は、平成28年3月までに、幼児から高校生まで、それぞれに対応した副読本を発行する予定です。

※地域の状況に応じて、独自に防災教育副読本を作成している市町村もあります。



平成25年度に発行したみやぎ防災教育副読本「未来へのきずな」
小学校3・4年生用

県立高校に災害科学科を新設

県では、災害から多くの命と暮らしを守ることができる人材の育成を図るため、平成28年度に全国2例目の防災系学科となる災害科学科を宮城県多賀城高等学校に開設します。そこでは、先駆的・先進的な防災教育を行い、全国さらには世界へ情報発信する「パイロットスクール」の役割を果たしていきます。なお、今年度からすでに大学や研究機関の研究者を講師に招き、講義やワークショップ、実験実習、フィールドワークを行うなど専門的な防災教育に積極的に取り組んでいます。

…災害に対応できる力と心を身につけます…

自らの命を守る思考力育む

色麻町立色麻小学校教諭・防災主任
本田 結城子さん



防災主任として学校全体の防災活動をけん引しているほか、4年生の学級担任であり発行された副読本を使って防災教育の授業を実践している。

「4年生は東日本大震災のとき小さかったし、本校は内陸部で被害が大きくなかったこともあって、被災の記憶が定かではありませんでした。その子たちが副読本を初めて見て津波の写真などに『すごい』『怖い』などと言いながら真剣に読んでいました。私自身が編集に関わったので自画自賛みたいになりますが、さまざまなことを凝縮した内容の深い副読本です」

大切なことは「自分の命を自分で守る」という意識付け。そのため何ができるかなど、児童たちが常日頃から考えることが欠かせない。

「知識を教えるだけでなく、考えたり、話し合ったりすることで判断力などがつきます。副読本には考えさせるポイントがたくさんある上、被災した子どもたちならではの作文や詩もあり、みんな重く受け止めて読んでいます」

防災教育で培った知識は、訓練によって磨かれ、より実践的になる。隣接する色麻中との合同実施も含めて年7回の訓練を重ねている。

「防災教育をしていることで、避難訓練、放送訓練などに取り組む姿勢がより真剣になっています。児童たちは訓練ごとに感想を書きます、教員側も反省点などを見つけて改善しています」

生き抜く力と課題解決力養う

東北大学災害科学国際研究所長
今村 文彦さん



県の防災専門教育アドバイザーを務めている。災害に関する知識の有無は命に関わる。防災教育の重要性を常日頃から訴えている。

「まず生き抜く力を身につけることです。そして、被害を繰り返さない強い社会をつくってほしい。知識にとどまらず、課題を解決する能力を持ってほしいと思います。適切に判断して臨機応変に行動できる力を養うのが理想です」

県教育委員会が発行した防災教育副読本の監修者も務めた。

「貴重な報道写真などが見やすく配置しており、災害のことを分かりやすく伝えています。防災を一つの教科と位置付けてもらい、副読本がよく活用されれば、大きなステップになります。防災教育深化への第一歩になってほしいですね」

所長を務める研究所は、災害科学の先端を担い成果を世界へ発信するとともに、人材育成でも貢献する。

「専門の研究機関として最新の研究成果を伝えて、教育面でも役立ちたい。新しく誕生した研究棟はさまざまな機能がありますので、災害学習や防災活動に活用してほしい。われわれも教育の現場に積極的に出向きます」

多賀城高に新設される「災害科学科」に期待を寄せる。「災害の仕組みを専門的に学び、高い技術も追求する学科だと聞いています。研究所と共通する部分があるので、共にサイエンスマインドを磨きましょう」

津波標識取り付けで苦勞

宮城県多賀城高等学校3年
中村 明穂さん



多賀城高には平成28年度、「災害科学科」が新設され、人と暮らしを守る志と実践力を持つ人材を養成する。新学科を見据えて同高は防災教育、防災活動を重点的に進めてきた。中村さんは多賀城と塩竈市内で取り組んだ津波標識の設置作業に参加した。

「1、2年生の時、先生の呼び掛けがあり、津波が来た高さを示す標識を電柱に取り付ける作業を生徒有志で実施しました。設置するのに苦労しましたし、大変だったのは、電柱のある場所を調べて津波痕の高さを測定するための事前調査でした。皆で必死に取り組み、ノウハウを先輩に無事引き継ぎました」

学校を中心に1キロ間隔で円を描き、多賀城市内の津波浸水域を再現。そこに自身の通学路を描いてみる通学防災マップの作成も心に残った。「いつも通っている道や市内がどう被災したのか、あらためて分かりました」

新設される学科に入ってくる後輩たちに言いたいことがある。「東日本大震災の時は小学生だった世代なので、記憶があまり鮮明に残っていないと思います。あの日何があったか、よく知ってほしい。そのことを次世代にしっかり引き継ぐ学科であってほしいです」

中村さんは「あの日」、七ヶ浜町の自宅で震災を体験。高台から津波が来襲する場面を目撃し「忘れられない思い」を味わった。「体験を語り継ぐことも忘れません」と言い切った。

■企画 / 県広報課 ◎お問い合わせ / みやぎ防災教育副読本に関すること：県スポーツ健康課 022(211)3669 / 災害科学科新設に関すること：県教育企画室 022(211)3617

県からのお知らせ

※日程や申込方法など、各記事のより詳しい内容は◎にお問い合わせください。アドレスを掲載している記事は、ホームページにも詳しい情報があります。
※東日本大震災に関する各種制度および相談窓口などの情報は、データ放送(NHK総合、ミヤギテレビ)で配信しています。

平成27年度宮城大学学生募集

●学部および研究科・人員／①【学部一般選抜】看護学部・50人、事業構想学部・115人、食産業学部・83人②【事業構想学研究所博士課程】前期課程・12人、後期課程・2人③【食産業学研究所博士課程】前期課程・8人、後期課程・2人
●出願期間／①1月26日(月)～2月4日(水)②③1月19日(月)～1月26日(日)
●試験日／①【前期】2月25日(水)、【後期】3月12日(木)②③2月7日(土)
●募集要項／下記の大学窓口で配布、または角形2号の返信用封筒(250円切手を貼り、表面に①、②、③の区分を朱書き、郵便番号、住所、氏名を記入)を下記へ
◎宮城大学入試担当
☎022(377)8333
〒981-3298大町学苑1-1
http://www.myu.ac.jp/site/exam/
◎県私学文書課
☎022(211)2295

南三陸の香り・味 ～海の味覚を堪能しませんか!!～

●内容／くし製作、魚のさばき方体験、カキ・ホタテむき体験、海鮮鍋など
●対象・定員／一般成人・30人(応募多数の場合は抽選)
●期日／1月17日(土)～18日(日)1泊2日
●場所／県志津川自然の家
●費用／5150円
●申込／1月6日(火)までに、住所、氏名、年齢、生年月日、電話番号を、往復ハガキ(消印有効)またはEメールにより、下記へ
◎県志津川自然の家
☎0226(46)9044
Eメール:szm@pref.miyagi.jp
〒986-0781南三陸町戸倉字本88-1

食の安全安心セミナー参加者募集

食品中の放射性物質に関するセミナーを開催します。
●内容／基調講演「低線量放射線の身体的影響について」(講師：東北大学名誉教授 山田 章吾氏)、講義「農林水産現場における対応」(講師：農林水産省・水産庁職員)、農林水産現場における取り組み事例の発表(宮城県農業協同組合中央会・宮城県漁業協同組合)
●定員／200人(先着順)
●日時／1月15日(木)午後1時30分～4時
●場所／県庁2階講堂
●申し込み／1月13日(火)までに、電話、ファクシミリまたはEメールにより、下記へ
◎県食と暮らしの安全推進課
☎022(211)2643
FAX022(211)2698
Eメール:syokua@pref.miyagi.jp

「第6期みやぎ高齢者元気プラン」 中間案への意見募集

県では、県の高齢者福祉施策の基本方針となる「第6期みやぎ高齢者元気プラン」の策定に当たり、県民の皆さんのご意見を募集しています。
●資料公表場所／県政情報センター、各地方振興事務所(仙台を除く)県政情報コーナー、県長寿社会政策課、下記ホームページ
●提出方法／1月26日(月)までに、ファクシミリ、Eメールまたは郵送(消印有効)により、下記へ
◎県長寿社会政策課
☎022(211)2536
FAX022(211)2596
Eメール:choujup1@pref.miyagi.jp
〒980-8570(所在地記載不要)県長寿社会政策課
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/chouju/

東日本大震災における 災害廃棄物処理シンポジウム

県が行った災害廃棄物処理業務を検証し、大規模災害時における災害廃棄物への取り組み方について考えるシンポジウムを開催します。
●内容／県による災害廃棄物処理業務の報告、学識経験者などによる災害廃棄物処理に関する講演やパネルディスカッション
●定員／200人(先着順)
●日時／2月2日(月)午後1時30分～4時30分
●場所／県庁2階講堂
●費用／無料
●申し込み／1月30日(金)までに、電話により、下記へ
◎県災害廃棄物対策課
☎022(211)2686
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/shinsaihaitai/

「セルフメディケーション時代を 上手に生きる」公開フェア

今後直面する超高齢社会で健やかに生きていくためには、自らの健康に責任を持って自立した生活を送れるよう心配すること(セルフメディケーション)が必要とされています。県では、セルフメディケーションについて、県民の皆さんに理解と関心を深めていただくため、イベントを開催します。
●内容／講演「すこやかに生きるこつ～食・薬・煙・AED～」(講師：東鳴とげめき地蔵尊高岩寺の住職兼医師 東馬明規氏)、模擬薬「セルフメディケーション薬局」の公開など
●日時／2月8日(日)午前11時～午後4時
●場所／仙台市戦災復興記念館
●費用／申し込み／無料・不要
◎県薬務課
☎022(211)2652

女性医師による女性の健康相談

女性の健康増進や禁煙に関する相談、思春期や更年期に伴う身体的・精神的不調、家庭や職場でのストレスなどで悩んでいる女性の相談に応じます(完全予約制・相談無料)。
●相談日／1月31日(土)
●開催地域／塩竈市
●場所／予約時に伝えます。
●予約先／☎090(5840)1993(月曜～金曜 飯日・休日を除く)午前9時～午後5時)
※予約は上記携帯電話のみで受け付けます。
◎県健康推進課
☎022(211)2623

「はたちの献血」キャンペーン実施中!

1月1日から2月28日まで「はたちの献血」キャンペーンを実施しています。寒さが厳しいこの季節は、献血にご協力いただける方が少なくなります。献血は身近なボランティア活動です。新成人の皆さんをはじめ、多くの方々の温かいご支援、ご協力をお願いします。
献血は、各地を巡回している献血バスや仙台市内2カ所にある献血ルーム(社の献血ルームA O B A、献血ルームAエル20)で受け付けています。
◎県薬務課
☎022(211)2652

測量士・測量士補国家試験

●試験日／5月17日(日)
●試験地／宮城県ほか全国13都道府県
●出願／1月6日(火)～30日(金)に国土地理院総務部総務課へ
●願書／1月6日(火)から下記および県の各土木事務所で配布
◎国土地理院
【総務部総務課】☎029(864)8214
◎県用地課
☎022(211)3122

事務力スキルアップセミナー受講者募集

ワード、エクセルなどのパソコン操作やビジネスマナー、履歴書の書き方などを学べるセミナーを開催します。
●対象・定員／主に求職中の方・各会場24人(応募多数の場合は書類審査による選考)
●日時／①【仙台会場】2月12日(木)～20日(金)②【石巻会場】2月19日(木)～27日(金)③【大崎会場】3月3日(火)～12日(木)④⑤いずれも土曜、日曜除く午前10時～午後5時
●場所／①JC-21学習センター②石巻専修大学③大崎生涯学習センター
●費用／受講料無料、テキスト代1500円
●申し込み／①1月12日(月・祝)②1月29日(木)③2月10日(火)までに、下記ホームページから電子申請
◎JC-21教育センター
☎022(222)6696
http://jimuryoku.info
◎県情報産業振興室
☎022(211)2479

精神障害者雇用推進セミナー

●内容／精神障害者の雇用事例によるノウハウや職場定着のポイントの紹介など
●対象・定員／精神障害者の雇用に関心のある企業の担当者など・30人(先着順)
●日時／1月26日(月)午後2時～4時
●場所／県石巻合同庁舎別棟1階103会議室
●申し込み／1月19日(月)までに、申込書に必要事項を記入し、電話またはファクシミリにより、下記へ
●申込書／県雇用対策課で配布、または下記ホームページからダウンロード
●費用／無料
◎県雇用対策課
☎022(211)2772
FAX022(211)2769
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koyou/seishin.html

宮城障害者職業能力開発校 平成27年度普通課程 訓練受講生2次募集

●科名／①デジタルデザイン科②OAビジネス科③情報システム科
●内容／①パソコンを使用したデザイン作業などの習得②各種ビジネスソフトによる事務処理・簿記会計などの習得③情報技術およびビジネスソフトの操作技能などの習得
●対象・定員／身体障害者手帳所持者①6人②③ともに1人
●訓練期間／4月9日(木)～平成28年3月10日
●選考日・方法／2月18日(火)・筆記、面接
●費用／受講料無料、教材費①約3万円②約4万円
●申し込み／1月8日(木)～2月3日(火)に、お住まいの地域を担当するハローワークへ
◎宮城障害者職業能力開発校
☎022(233)3124
FAX022(233)3125
http://www.pref.miyagi.jp/site/miyas-hou/

気仙沼高等技術専門学校 再就職訓練(短期課程)受講生募集

●科名／1.T基礎科(3カ月)
●内容／パソコン知識、技能の習得訓練
●対象・定員／求職活動中でハローワークに相談しており、公共職業安定所長の受講指し、受講推薦または支援指示を受けられる方・20人
●訓練期間／3月4日(水)～6月3日(水)
●選考日・方法／2月19日(木)・面接
●費用／受講料無料、教材費約1万5000円
●申し込み／1月19日(月)～2月10日(火)に、お住まいの地域を担当するハローワークへ
◎気仙沼高等技術専門学校
☎0226(22)7068

灯油の取り扱いに注意しましょう

寒い日が続くこの季節は灯油を使う機会が多くなります。それに伴い、家庭のホームタンクからポリタンクに灯油を移すときなどに、目を離したり、バルブを開め忘れたりしたために、灯油が流出する事故が増えてきます。流れた灯油は、水路や河川に流れ出て、水環境を汚染するほか、火災の原因となり、貴重な生命や財産が失われる危険もあります。灯油の取り扱いには十分な注意をお願いします。
◎県河川課
☎022(211)3172

なっ得!発見!みやぎ環境フォーラム

地球温暖化防止のために家庭で実践できる取り組みについてのヒントや発見の機会を提供するフォーラムを開催します。
●内容／基調講演「気象予報士から見た地球温暖化」(講師：NHK気象キャスター 井田 寛子氏)、宮城県自然エネルギー等・省エネルギー「大賞表彰式、エコバッグ・マイタンナー作り」の無料体験コーナーなど
●日時／2月8日(日)午後1時～4時
●場所／せんだいメディアテーク1 階オープンスクエア
●費用／無料
※講演の聴講を希望される場合は、1月23日(金)までに、住所、氏名、年齢、電話番号を往復はがき(消印有効)により、下記へ(往復はがき1枚につき2人まで申し込み可能、応募多数の場合は抽選)
◎県環境政策課
☎022(211)2661
〒980-8570(所在地記載不要)県環境政策課
企画 / 県広報課